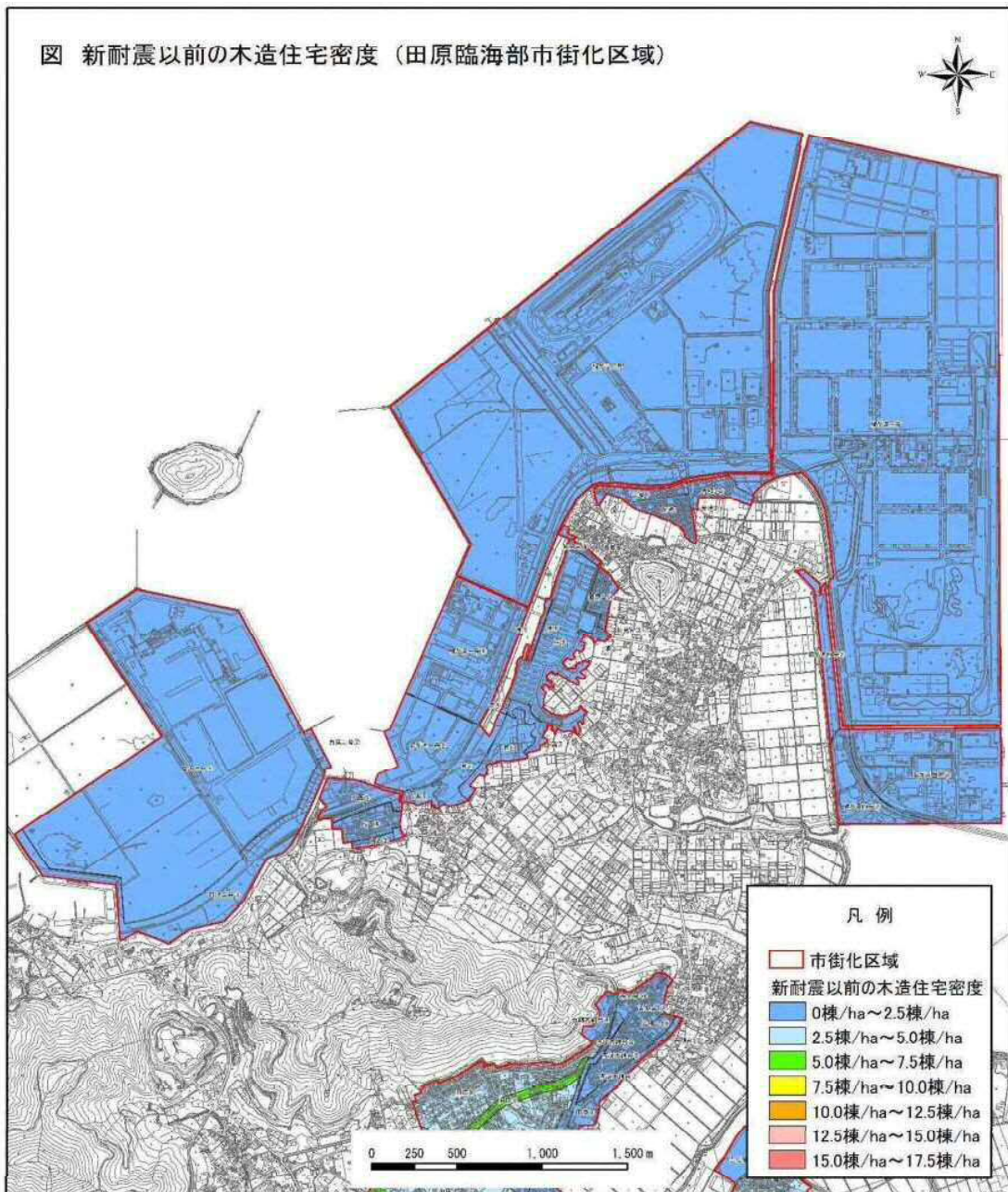
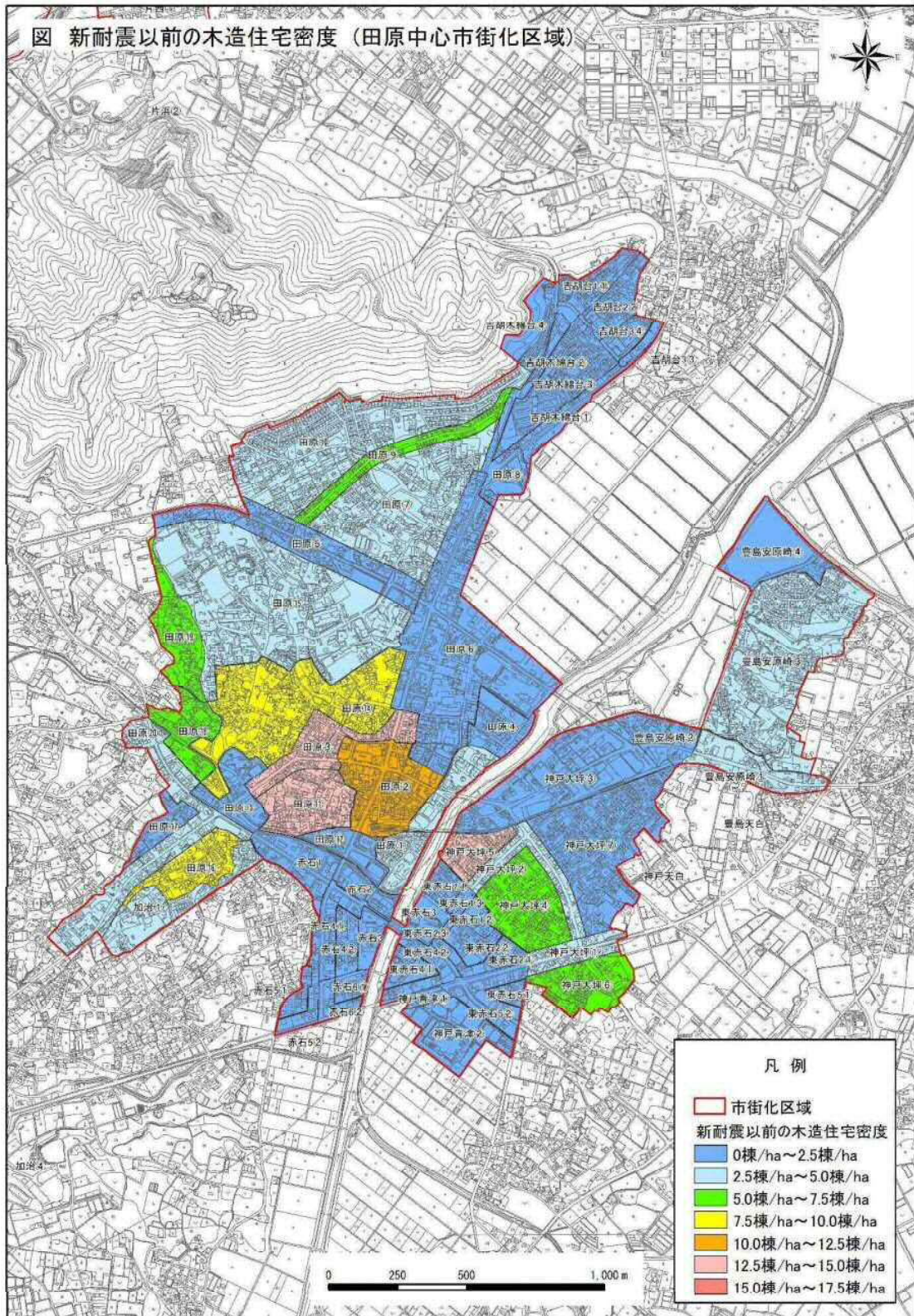
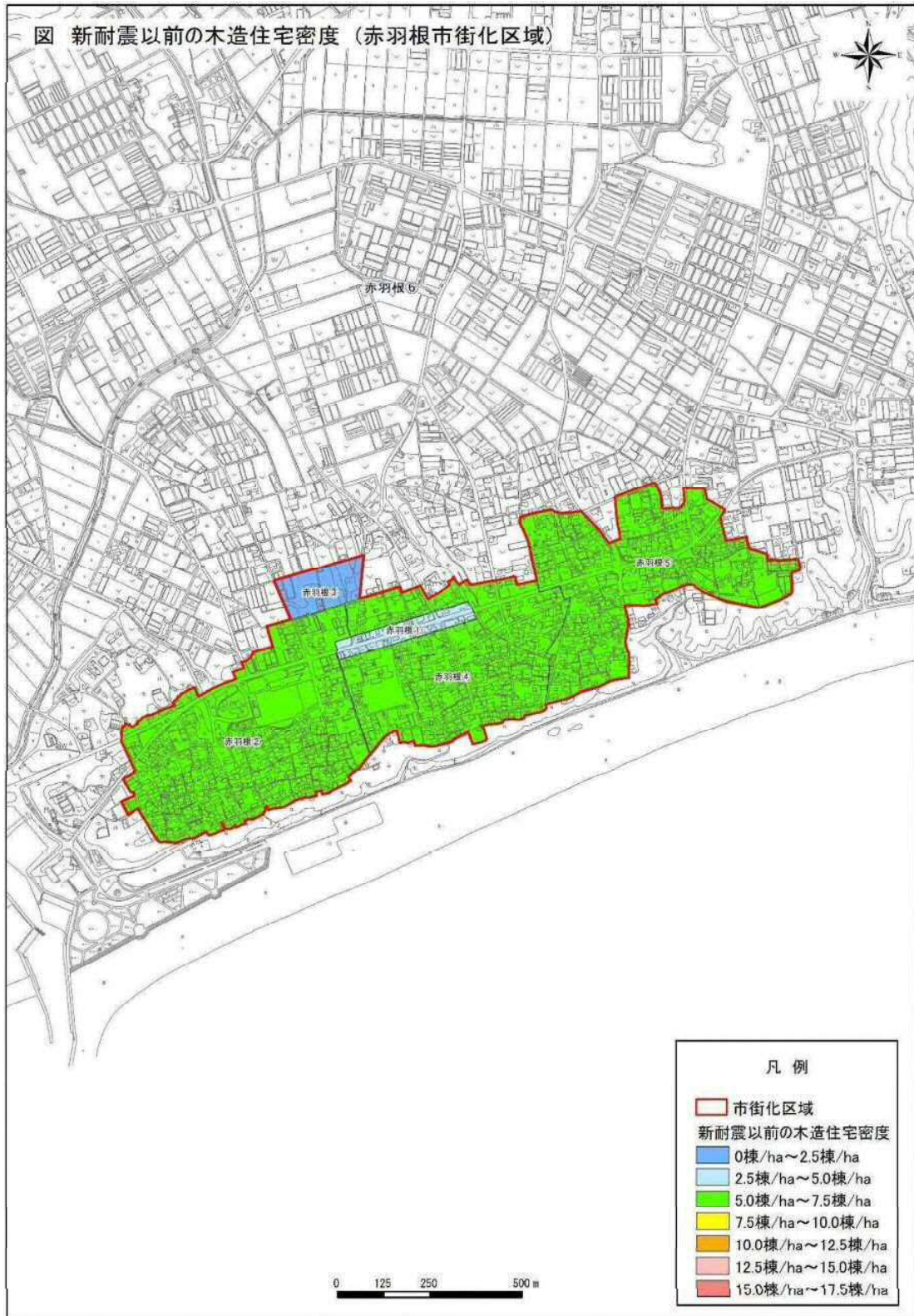


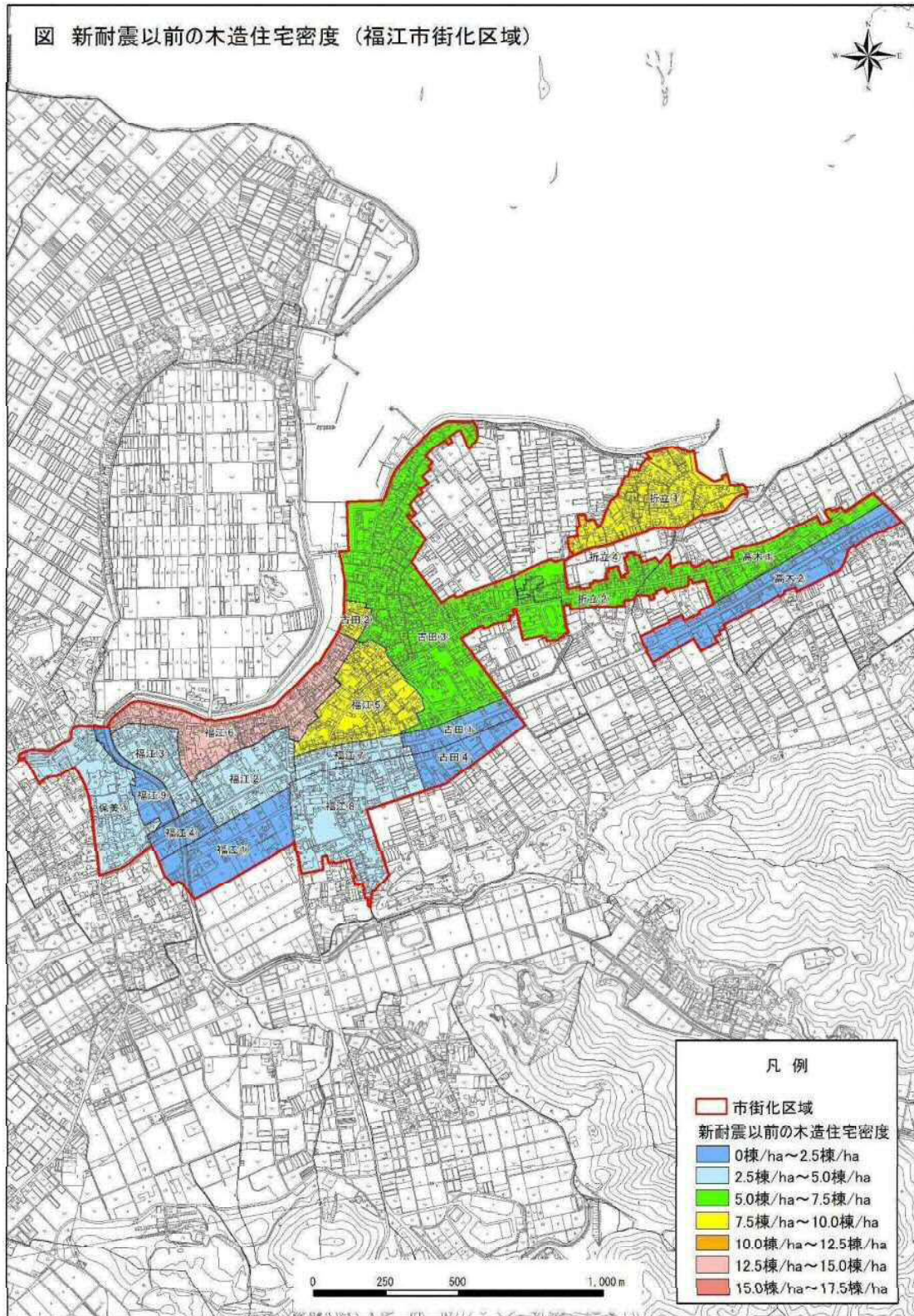
資料-5 地域別新耐震以前の木造住宅密度

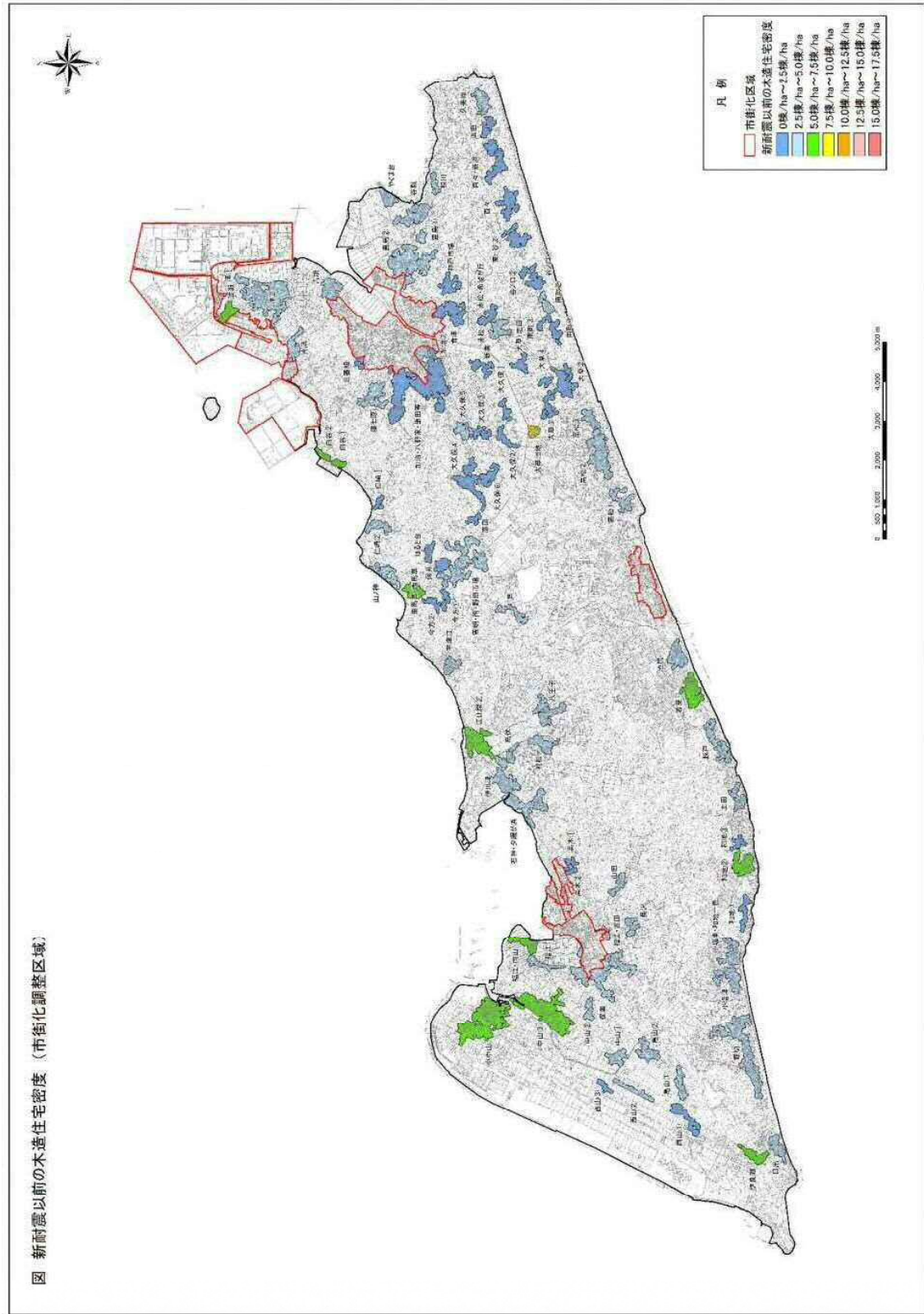
新耐震以前の木造住宅の密集度（1haあたりの棟数）を、市街化区域は都市計画基礎調査の調査区ごと、市街化調整区域は建物が50戸以上連なって立地している区域ごとに集計しました。結果は次の図及び表のとおりです。











資料編

表 新耐震以前の木造住宅密度（市街化区域）1

地域名	地区面積 (ha)	S56以前 木造住宅 (棟)	S56以前木造 住宅密度 (棟/ha)	10棟/ha 以上
豊島安原崎①	4.78	13	2.72	
豊島安原崎②	3.64	7	1.92	
豊島安原崎③	22.54	66	2.93	
豊島安原崎④	7.11	0	0.00	
吉胡台1①	3.22	2	0.62	
吉胡台2②	3.20	1	0.31	
吉胡台3③	0.67	0	0.00	
吉胡台3④	1.59	0	0.00	
吉胡木綿台①	2.53	1	0.40	
吉胡木綿台②	1.57	2	1.27	
吉胡木綿台③	7.41	17	2.29	
吉胡木綿台④	3.46	0	0.00	
加治①	5.54	14	2.53	
田原①	2.70	11	4.07	
田原②	9.10	99	10.88	○
田原③	6.30	79	12.54	○
田原④	3.57	0	0.00	
田原⑤	9.06	18	1.99	
田原⑥	26.58	54	2.03	
田原⑦	18.22	64	3.51	
田原⑧	2.60	1	0.38	
田原⑨	4.60	31	6.74	
田原⑩	20.86	94	4.51	
田原⑪	6.33	82	12.95	○
田原⑫	3.50	12	3.43	
田原⑬	4.06	5	1.23	
田原⑭	18.50	158	8.54	
田原⑮	32.94	107	3.25	
田原⑯	4.61	36	7.81	
田原⑰	2.15	3	1.40	
田原⑱	4.22	28	6.64	
田原⑲	5.21	29	5.57	
田原⑳	10.93	50	4.57	
田原21	2.90	0	0.00	
神戸大坪①	2.83	12	4.24	
神戸大坪②	3.64	14	3.85	
神戸大坪③	14.50	31	2.14	
神戸大坪④	7.81	52	6.66	
神戸大坪⑤	2.88	38	13.19	○

資料編

表 新耐震以前の木造住宅密度（市街化区域）2

地域名	地区面積 (ha)	S56以前 木造住宅 (棟)	S56以前木造 住宅密度 (棟/ha)	10棟/ha 以上
神戸大坪⑥	5.25	32	6.10	
神戸大坪⑦	14.86	29	1.95	
神戸青津①	0.89	0	0.00	
神戸青津②	5.97	0	0.00	
赤石1	4.28	4	0.93	
赤石2	2.13	0	0.00	
赤石3	1.60	0	0.00	
赤石4①	2.75	1	0.36	
赤石4②	1.84	0	0.00	
赤石5①	1.06	0	0.00	
赤石5②	1.85	0	0.00	
赤石6①	1.06	0	0.00	
赤石6②	1.42	0	0.00	
東赤石1①	1.49	0	0.00	
東赤石1②	1.00	0	0.00	
東赤石1③	0.56	0	0.00	
東赤石2①	2.12	2	0.94	
東赤石2②	1.86	1	0.54	
東赤石2③	0.24	0	0.00	
東赤石3	2.08	0	0.00	
東赤石4①	1.68	0	0.00	
東赤石4②	2.29	0	0.00	
東赤石5①	0.83	0	0.00	
東赤石5②	3.81	0	0.00	
浦①	1.08	1	0.93	
浦②	7.04	0	0.00	
浦③	0.50	0	0.00	
浦④	0.33	0	0.00	
浦⑤	24.94	0	0.00	
浦⑥	6.97	0	0.00	
浦⑦	2.33	0	0.00	
片西①	5.70	0	0.00	
片西②	1.48	0	0.00	
片西③	7.78	2	0.26	
片浜①	1.96	0	0.00	
白浜二号①	185.64	0	0.00	
白浜二号②	1.25	0	0.00	
白浜二号③	26.01	0	0.00	
緑が浜一号①	36.30	0	0.00	

資料編

表 新耐震以前の木造住宅密度（市街化区域）3

地域名	地区面積 (ha)	S56以前 木造住宅 (棟)	S56以前木造 住宅密度 (棟/ha)	10棟/ha 以上
緑が浜一号②	20.50	0	0.00	
緑が浜二号	343.20	0	0.00	
緑が浜三号	398.03	0	0.00	
緑が浜四号①	44.17	0	0.00	
緑が浜四号②	11.99	0	0.00	
緑が浜四号③	6.55	0	0.00	
光崎1	4.71	0	0.00	
光崎2	3.80	1	0.26	
光崎3①	0.22	0	0.00	
光崎3②	4.01	0	0.00	
赤羽根①	2.06	9	4.37	
赤羽根②	24.09	136	5.65	
赤羽根③	2.54	0	0.00	
赤羽根④	19.01	106	5.58	
赤羽根⑤	19.16	107	5.58	
姫見台①	1.45	0	0.00	
姫見台②	3.41	0	0.00	
姫見台③	0.38	0	0.00	
高木①	7.00	43	6.14	
高木②	9.46	10	1.06	
折立①	9.65	96	9.95	
折立②	4.40	32	7.27	
古田①	3.10	0	0.00	
古田②	1.12	9	8.04	
古田③	28.01	163	5.82	
古田④	3.42	2	0.58	
福江①	8.18	7	0.86	
福江②	7.40	29	3.92	
福江③	4.64	22	4.74	
福江④	2.33	3	1.29	
福江⑤	8.95	68	7.60	
福江⑥	10.93	147	13.45	○
福江⑦	3.16	8	2.53	
福江⑧	12.04	40	3.32	
福江⑨	2.56	5	1.95	
保美①	8.78	24	2.73	

資料編

表 新耐震以前の木造住宅密度（市街化調整区域）1

地域名	地区面積 (ha)	S56以前 木造住宅 (棟)	S56以前木造 住宅密度 (棟/ha)	10棟/ha 以上
谷熊	28.27	85	3.01	
豊島①	6.30	21	3.33	
豊島②	66.59	198	2.97	
吉胡	20.97	70	3.34	
浦①	5.93	19	3.20	
浦②	74.12	266	3.59	
波瀬	13.33	78	5.85	
片浜	16.88	58	3.44	
白谷①	5.64	42	7.45	
白谷②	5.86	33	5.64	
加治②	10.85	29	2.67	
加治・八軒家・鎌田等	115.71	231	2.00	
藤七原	26.75	68	2.54	
三番組	5.19	2	0.39	
大久保①	9.33	13	1.39	
大久保②	11.01	15	1.36	
大久保③	11.09	15	1.35	
大久保④	8.93	21	2.35	
大久保⑤	12.60	55	4.36	
大久保⑥	39.41	97	2.46	
新美	13.51	33	2.44	
彦田	6.58	13	1.98	
神戸市場	17.07	40	2.34	
大草②	29.60	49	1.66	
大草③	14.75	19	1.29	
大草④	6.21	10	1.61	
大草団地	7.25	67	9.24	
大草・志田	11.39	21	1.84	
南町①	11.37	18	1.58	
南町②	10.75	35	3.26	
南町③	6.03	9	1.49	
谷ノ口①	12.19	26	2.13	
谷ノ口②	7.73	11	1.42	
東ヶ谷②	20.72	46	2.22	
赤松	17.22	46	2.67	
赤松・希望が丘	13.29	22	1.66	
青津	29.50	53	1.80	
百々	23.96	54	2.25	
百々・新浜	29.72	61	2.05	

資料編

表 新耐震以前の木造住宅密度（市街化調整区域）2

地域名	地区面積 (ha)	S56以前 木造住宅 (棟)	S56以前木造 住宅密度 (棟/ha)	10棟/ha 以上
浜田	11.85	26	2.19	
久美原	17.63	49	2.78	
雲明・南・野田市場	62.66	195	3.11	
今方①	8.35	15	1.80	
今方②	7.46	13	1.74	
保井	10.40	23	2.21	
東馬草・西馬草	15.18	105	6.92	
仁崎①	6.04	15	2.48	
仁崎②	12.92	53	4.10	
山ノ神	18.66	47	2.52	
ほると台	9.24	0	0.00	
やぐま台	12.92	52	4.02	
相川	8.55	28	3.28	
芦	13.53	36	2.66	
高松①	19.31	77	3.99	
高松②	42.78	160	3.74	
高松③	12.36	31	2.51	
若見	29.86	154	5.16	
越戸	26.57	83	3.12	
土田	15.39	72	4.68	
池尻	21.80	102	4.68	
宇津江	12.21	58	4.75	
江比間②	35.17	214	6.08	
八王子	26.35	97	3.68	
村松	17.68	60	3.39	
馬伏	15.02	40	2.66	
伊川津	25.33	125	4.93	
石神・夕陽が浜	37.54	100	2.66	
山田	10.56	36	3.41	
高木①	5.14	7	1.36	
高木②	4.78	11	2.30	
福江・古田	5.00	20	4.00	
長沢	10.35	32	3.09	
福江	12.33	43	3.49	
西山①	19.32	48	2.48	
西山②	12.35	36	2.91	
西山③	6.19	9	1.45	
保美	62.97	163	2.59	
福江・向山	15.20	82	5.39	

資料編

表 新耐震以前の木造住宅密度（市街化調整区域）3

地域名	地区面積 (ha)	S56以前 木造住宅 (棟)	S56以前木造 住宅密度 (棟/ha)	10棟/ha 以上
中山①	14.28	49	3.43	
中山②	9.77	25	2.56	
中山③	74.06	414	5.59	
小中山	83.33	541	6.49	
亀山①	15.07	46	3.05	
亀山②	18.06	60	3.32	
伊良湖	14.94	83	5.56	
日出	15.94	75	4.70	
堀切	70.54	316	4.48	
小塩津	24.51	77	3.14	
小塩津・和地一色	21.46	88	4.10	
和地①	13.23	27	2.04	
和地②	23.64	128	5.41	
和地③	8.20	13	1.58	

資料－6 田原市耐震改修促進計画意見交換会

1. 開催概要

○開催日時・場所

- ・日時：【第1回】令和2年10月12日（月） 10：00～11：30
【第2回】令和2年10月26日（月） 10：00～11：30
- ・場所：田原福祉センター3階会議室

○次第

第1回	<ol style="list-style-type: none"> 1. 開会のあいさつ 2. 意見交換会参加者紹介 3. 田原市耐震改修促進計画について計画の概要説明 4. 木造住宅の耐震化に向けた現状と課題について現状や取り組み等の説明 <ul style="list-style-type: none"> ・大規模地震が起きた際の被害想定について ・田原市の木造住宅の耐震化の現状 ・木造住宅の耐震化に向けて 5. ブロック塀等の転倒防止に向けた現状と課題について現状や取り組み等の説明 <ul style="list-style-type: none"> ・ブロック塀等に関すること ・ブロック塀等に関する対策の現状
第2回	<ol style="list-style-type: none"> 1. 第1回意見交換会の確認 2. 木造住宅の耐震化及びブロック塀等の転倒防止に向けた対策について 地域ぐるみの耐震活動に向けた普及啓発活動について (令和元年度清田校区減災まちづくり事業) 3. 閉会のあいさつ

○参加者（敬称略）

- ① 名古屋工業大学高度防災センター 客員教授 川端 寛文
- ② 中山校区会長 小川 悟（令和2年度 自主防災活動推進地区）
- ③ 大草校区会長 藤原 喜郎（令和2年度 自主防災活動推進地区）
- ④ 田原市民生・児童委員会 高橋 純子
- ⑤ 田原安心・安全住まいる会 木村 普昌
- ⑥ 田原安心・安全住まいる会 森下 義和

2. 議事（要旨）の概要

[全般に関する意見]

- ・ 東日本の地震は震源地が遠くであったが、南海トラフによる地震は田原市に近いところで起きることから、大きな揺れとなる。地震による人的被害は、火災、津波によることもあるが、建物の倒壊により避難ができないことによることがあり、建物の耐震性が重要になる。また、耐震性の低い建物は古い住宅であり、この住宅の耐震性を高めることにより、人的被害をなくすことが可能である。

[住宅の耐震化に向けた取り組みに関する意見]

- ・ 地元の方から見れば、民間業者に対して不信感がある。安心感を得るために、自治会メンバーが同伴して、地元の業者等の専門家が訪問する必要がある。
- ・ 一人暮らしの高齢者の方は、比較的古い建物に住んでいるケースが多い。高齢者の方は住んでいる住宅より、今の自分の生活、歩くこと、病気、認知症などの自分自身、日々の生活がぎりぎりの状況であるため、耐震改修まで手が回らないのが現実である。
- ・ 耐震改修工事は、家具の移動や多額の工事費がかかり、大変なことだと思っている。
- ・ 高齢者の一人暮らしの方が住んでいる比較的小さい住宅で、外観から判断し、補助金内で耐震改修工事まで可能と思われる住宅が比較的多くある。
- ・ 地元の大工さんだけでは、営業に不慣れな方も多く、また不信感もあるため飛込での営業はしにくい状況がある。
- ・ 高齢者の方も耐震に関しては、自分の命、孫のことを考えると何とかしたいと思っているので、働き掛けが必要だと思う。
- ・ 改修には多額の費用が掛かるというイメージがある。
- ・ 高齢者で、住宅も平屋が多く、このままで良いという方が多いとのことであった。
- ・ 近所の大工さんに相談したら、筋交いを入れたりしてお金もかかるし、大変だから止めたほうがいいと言われた。
- ・ 高齢者は会合があっても、自分からはまず行かない。そうした方々にどのように伝えるかということがあがるが、伝える際には、まず詐欺ではないという安心感を与えることと、耐震改修にお金はさほどかからない、思うほど大変ではないということを理解してもらうことが重要だと思う。特に、自宅に住んでいながら改修工事ができるというのは驚くと思う。

具体的な対策・対策のヒント

- ・ 高知県の黒潮町では、5年前から大きく動き出したが、それまではほとんど動いていない状況であった。県を中心に地元の大工に働きかけを行い、耐震改修工事の手ほどきを行った。小さな町においては、新築をはじめ地元の大工さんが中心となって建築工事を行っている。地元大工の意識が変わることによって耐震改修工事が進むようになった。地元の人がやるのが大事である。地域で、皆で考えて進めることが大事である。また安価な工法を広めることが大事である。
- ・ 低コスト工法を採用することで、補助金内で工事ができ、自己負担がなくなるのであれば、工事をする人が増えると思う。信用性の高い業者や市役所職員の仲介を得て低コストで簡単に実施できるのであれば、その点を周知することで改修工事の実績が増えると思う。
- ・ 市職員のアピール力、説明力が重要である。実際、高齢者の方は、耐震に関する情報量が少なく、心配性なので、信頼性のある業者さんや市役所の方に説明をしていただき、また高齢者の方は理解力も落ちてきているのでよりわかりやすい、納得しやすい説明が必要である。
- ・ 耐震改修に関するPR活動は、広く大きくやっても参加者が少ないため、あまり効果的ではない。自治会の集まりでも役員選などの大事な会でも参加者が少ない状況である。どうすればいいかという、広く大きくではなく、該当地区を決めてピンポイントでPRの方が効果的であると考えます。
- ・ 田原市において毎年11月に自主防災の訓練を行っているが、内容がマンネリ化している状況である。その時に今日の様な耐震改修の話をしてはどうかと思う。その時にパンフレット等を配るだけではそれだけで終わってしまうので、可能であれば地元の大工さんに参加いただき、耐震改修工事の内容、費用等の説明等を行うこと、説得力が増すと思う。興味のある方は、質問もされる方もいるので、試しにやってみる価値はあると思う。
- ・ ハウジングアンドコミュニティ財団や減災協（愛知建築地震災害軽減システム研究協議会）の補助を使うなどしてある程度展開できると思う。
- ・ 民生委員も耐震に関して正しい知識を持つておくことは重要だ。
- ・ 耐震のPRのために人を集めるのは大変であるが、防災訓練のように人が集まっている場に出向いてPRするのが効果的だと思う。
- ・ 耐震改修について説明する側の設計士や大工が従来の工法等で高い見積を出してし

まっでは改修が進まないの、設計士や大工に勉強してもらうことが重要である。

- ・ 大工さんがリフォームなどを頼まれた際に、現場をみて耐震改修もできそうと判断したら建築士さんにつなげるという仕組みさえできれば良い。
- ・ 大工さんを耐震改修に対する理解度のランク付けをすることも考えられる。そうすることで、大工さんも上のランクを目指して頑張れるのではないかな。
- ・ 大工の組織が渥美と田原にあり、その組織の会長さんなどに説明を行って会合でそれぞれの大工さんに広めてもらう。
- ・ 効果が上がりやすそうな地区を選定して先行的に進めることで徐々に広がっていくのではないかな。
- ・ PRの方法として、自治会長は毎年変わっていくので、自治会長に向けて周知を図ることで徐々に知識を広めることも考えられる。自治会長向けの説明資料などがあると良いと思う。
- ・ ケアマネージャーさんなどからも耐震改修のPRができれば門戸は広がるのではないかなと思う。
- ・ 意識をどう変えていくかということで、まずトップの自治会長さんにこういう方法もあるということを周知していくことが良いと思うし、来年の防災訓練でも伝達していきたい。

[住宅の耐震化に向けた補助に関する意見]

- ・ 所有者の方の認識としては、診断を行った場合は、工事まで行わなければならないとの認識を持つ方が多くいることから、診断すら行えないケースもある。
- ・ 耐震改修のみであれば補助金内に収まる場合が多い。
- ・ 現在は補助金が設計と施工をあわせて一括 140 万円となっているが、設計を完了して、その工事費用と、お客さんの考えていた改修金額に開きがある場合、施工をキャンセルするケースがあり、設計単独に対する補助金が無いことから、設計費用をお客さんに負担していただくことになる。設計料に対する補助があれば良いと思う。

【ブロック塀の耐震化に向けた取り組みに関する意見】

- ・ 危険なブロック塀の所有者本人に自覚がないので、積極的な働きかけが必要である。
- ・ ブロック塀については、倒れて被害が発生した場合、所有者に民事的な責任が発生することがあることから、対応が必要である。
- ・ 空き家のブロック塀が通学路に面している場合があり早急な対応が必要である。

具体的な対策・対策のヒント

- ・ ブロック塀に関しては、大地震が起きれば古いものは必ず倒壊する。
- ・ 所有者、管理者の責任は免れないので、そうしたリスクを訴えながら進めることが重要である。

【ブロック塀の耐震化に向けた補助に関する意見】

具体的な対策・対策のヒント

- ・ 通学路沿いにも危険なものがあるが、そういったところほど補助金を増やすことができなにかと思う。そうすることで、危険度の高いところから優先的に解消できるのではないか。

田原市南海トラフ地震被害予測調査業務

報告書

【抜粋】

平成 27 年 3 月

田 原 市

前提条件

(1) 想定地震

内閣府では、南海トラフの巨大地震モデルとして想定する震源断層域（地震時に動く断層域）は、南海トラフの巨大地震モデル検討会（第二次報告）（平成24年8月29日発表）で報告されたとおり、修正した新たなプレート境界面において、東側（駿河湾側）は駿河湾における南海トラフのトラフ軸（富士川河口断層帯の領域を含む。）から、南西側（日向灘側）は九州・パラオ海嶺の北側付近でフィリピン海プレートが厚くなる領域までとし、深さ方向には、トラフ軸からプレート境界面の深さ約30kmからそれよりもやや深い深部低周波地震が発生している領域まで（日向灘の領域はプレート境界面の深さ約40kmまで）とし、そして、震源断層域のなかで、強震断層モデルを検討する強震断層域は、プレート境界面の深さ10kmより深い領域としている。結果として、次の4ケースを設定している。

- ①基本ケース：中央防災会議による東海地震、東南海・南海地震の検討結果を参考に設定したもの
- ②東側ケース：基本ケースの強震動生成域を、やや東側（トラフ軸から見て、トラフ軸に概ね平行に右側）の場所に設定したもの
- ③西側ケース：基本ケースの強震動生成域を、やや西側（トラフ軸から見て、トラフ軸に概ね平行に左側）の場所に設定したもの
- ④陸側ケース：基本ケースの強震動生成域を、可能性がある範囲で最も陸域側（プレート境界面の深い側）の場所に設定したもの

本調査においては、愛知県(2014)でも検討しており、田原市に影響の大きい陸側ケースと東側ケースの2ケースを考えた。

※注）本計画（田原市耐震改修促進計画）では、「建物被害」、「人的被害」の2ケースにおいて、ともに最大となるケースのみを抜粋して掲載しています。

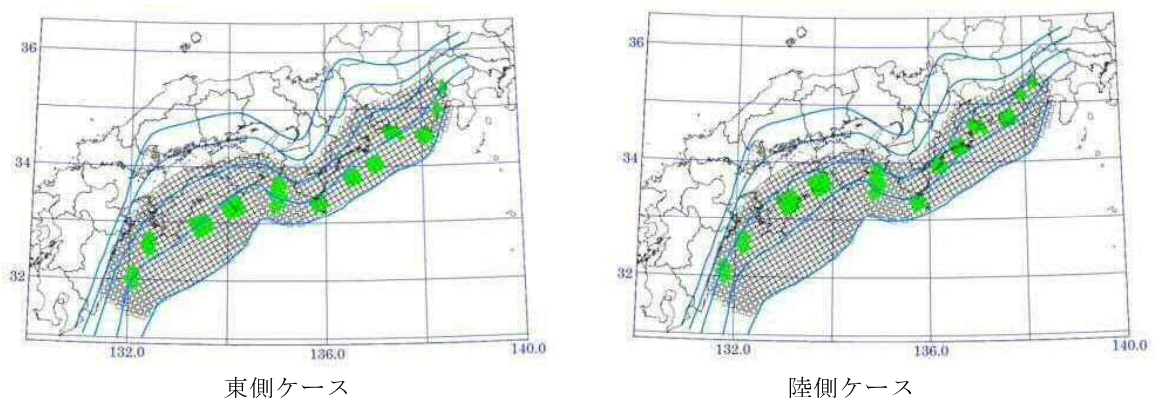


図 1.1 南海トラフの巨大地震モデル検討会(2012)で設定された想定地震の強震動生成域

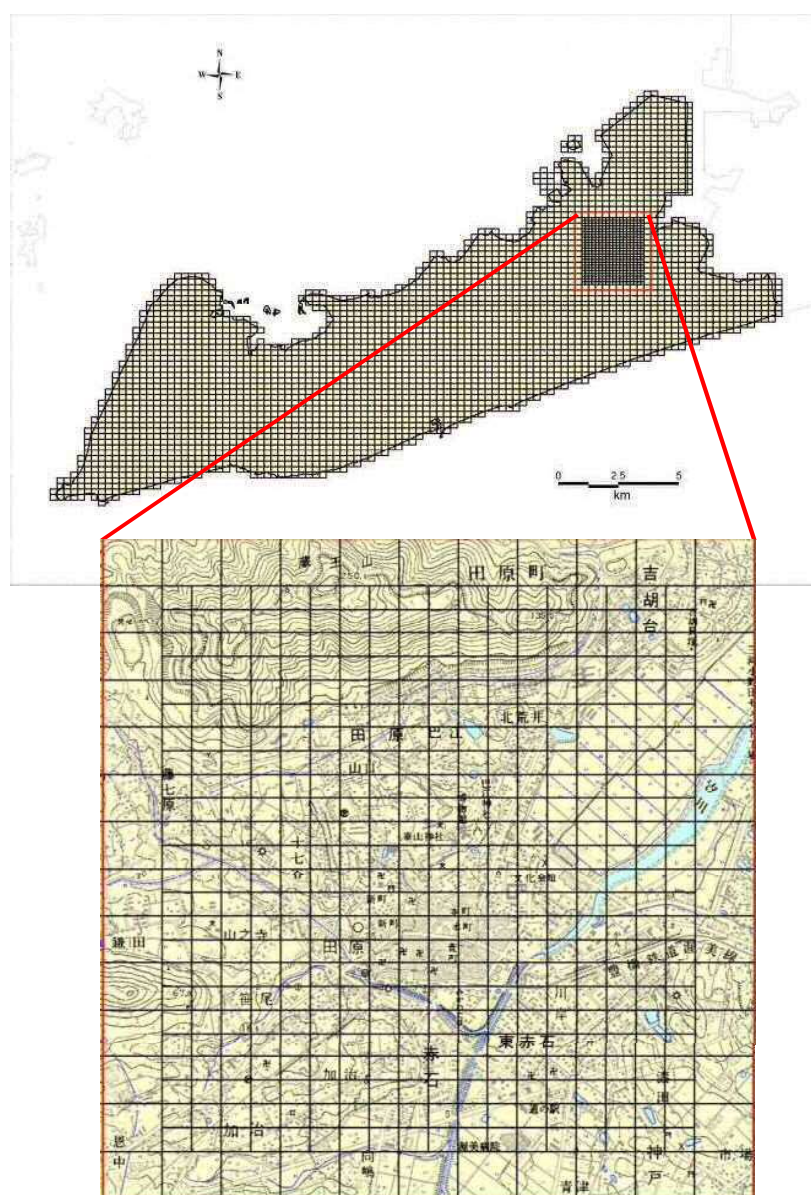
(2) 想定季節と時間

被害を想定する季節と時間は、次の3ケースとした。

- ・冬の夕方（18時頃）
- ・春秋日中（12時頃）
- ・冬の早朝（5時頃）

(3) 被害想定単位

被害を想定する単位は250mメッシュ（中心市街地は125mメッシュ）とした。



この地図は、国土地理院長の承認を得て、同院発行の数値地図25000、50000、200000（地図画像）を複製したものである。（承認番号 平19総復、第851

図 1.2 作成する地盤モデルのメッシュ区域（125mメッシュ及び250mメッシュ）

建物被害の予測

理論上最大想定モデル（地震動：東側ケース、津波：ケース①）

項目	被害区分	冬・早朝	春秋・日中	冬・夕
地震動	全壊	10,279		
	半壊	5,621	5,569	5,314
液状化	全壊	13		
	半壊	158	157	152
津波	全壊	817		
	半壊	1,121	1,109	1,043
急傾斜地等	全壊	36		
	半壊	84	84	84
火災	焼失	455	587	1,278
建物棟数		30,031		
建物被害総数	全壊・焼失	11,600	11,732	12,423
	半壊	6,984	6,919	6,593
建物被害率	全壊・焼失	38.6%	39.1%	41.4%
	半壊	23.3%	23.0%	22.0%
ブロック塀等転倒数		1,359		
屋外落下物が発生する建物数		3,170		

資料編

建物被害（理論上最大想定モデル（地震動：東側ケース、津波：ケース①）、冬夕方発災）

(1/3)

校区名	地区名	全壊・焼失棟数						半壊棟数				
		揺れ	液状化	津波	急傾斜地	火災	合計	揺れ	液状化	津波	急傾斜地	合計
田原東部	相川	43	0	0	0	1	43	13	0	0	0	13
	谷熊	142	0	1	0	3	146	63	1	3	0	68
	やぐま台	143	0	0	0	0	144	77	0	1	1	79
	豊島	586	0	0	0	5	591	165	0	1	0	166
	御殿山	67	0	0	0	0	67	26	0	0	0	26
小計		980	1	1	0	9	992	344	1	5	1	351
童浦	吉胡	108	0	1	0	7	116	47	0	3	0	50
	浦	199	0	2	0	14	215	166	0	3	0	170
	波瀬	41	0	0	0	7	48	36	0	0	0	36
	片西	16	0	0	0	0	16	22	0	0	0	22
	片浜	42	0	0	0	1	43	22	0	0	0	22
	白谷	41	0	0	0	1	43	36	0	0	0	37
	西浦	9	0	0	0	1	10	6	0	0	0	6
	姫見台	11	0	0	0	4	15	16	0	0	0	16
	木綿台	35	0	0	0	6	42	28	0	0	0	28
	光崎	40	0	0	0	2	42	49	2	0	0	51
吉胡台	30	0	0	0	2	32	28	0	0	0	28	
小計		574	0	3	0	44	622	456	3	7	0	466
田原南部	大久保	213	0	0	1	4	218	128	0	0	2	130
小計		213	0	0	1	4	218	128	0	0	2	130
田原中部	一番東	199	0	0	0	7	206	41	0	1	0	42
	一番西	88	0	0	0	8	96	17	0	0	0	17
	三番組	81	0	0	0	1	82	35	0	0	0	35
	四番組南	171	0	1	0	6	177	49	0	4	0	53
	四番組東	37	0	0	0	3	40	19	0	0	0	19
	四番組西	116	0	0	0	3	119	62	0	0	0	62
	萱町一区	174	0	0	0	19	193	21	0	4	0	26
	萱町二区	162	0	0	0	18	180	19	0	1	0	21
	萱町三区	173	0	0	0	16	188	13	0	0	0	13
	本町	84	0	0	0	9	93	11	0	0	0	11
	新町	241	0	0	0	31	272	37	0	0	0	37
	蔵王	1	0	0	2	0	3	1	0	0	4	6
	蔵王東ヶ丘	68	0	0	0	4	72	50	0	0	0	50
蔵王南ヶ丘	53	0	0	0	4	57	33	0	0	0	33	
小計		1,647	1	1	2	128	1,778	408	0	11	4	423
衣笠	加治	372	0	0	3	8	383	152	0	0	7	159
	衣笠	158	0	0	0	6	164	72	0	0	0	72
	東滝頭	6	0	0	0	3	9	12	0	0	0	12
	八軒家	148	0	0	0	9	157	61	0	0	0	61
	藤七原	49	0	0	0	1	50	37	0	0	0	37
	鎌田	14	0	0	0	2	16	19	0	0	0	19
	赤石	122	0	0	0	5	126	54	0	0	0	55
小計		868	0	0	3	34	905	406	0	0	7	413

注) 端数処理の関係で、合計が各項目の和と一致しない場合がある。

資料編

建物被害（理論上最大想定モデル（地震動：東側ケース、津波：ケース①）、冬夕方発災）

(2/3)

校区名	地区名	全壊・焼失棟数						半壊棟数				
		揺れ	液状化	津波	急傾斜地	火災	合計	揺れ	液状化	津波	急傾斜地	合計
神戸	川岸	235	0	0	0	12	247	38	0	4	0	43
	漆田一区	260	0	0	0	7	267	60	0	0	0	60
	漆田二区	129	0	0	0	7	136	23	0	0	0	23
	神戸市場	81	0	0	0	1	81	21	0	0	0	21
	青津	189	0	0	0	2	191	47	0	0	0	47
	希望が丘	4	0	0	0	0	4	1	0	0	0	1
	赤松	156	0	0	0	2	158	50	0	0	0	50
	志田	24	0	0	0	0	24	9	0	0	0	9
	新美	28	0	0	0	0	28	12	0	0	0	12
	南町	113	0	0	0	2	115	43	0	0	0	43
	谷ノ口	50	0	0	0	0	51	17	0	0	0	17
	東ヶ谷	92	0	0	0	1	92	29	0	0	0	29
	サンコート	1	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0
	漆田三区	89	0	0	0	4	93	18	0	0	0	18
	東赤石	61	0	0	0	1	62	14	0	0	0	14
小計		1,512	1	1	0	38	1,552	381	1	5	0	387
大草	大草	264	0	0	0	4	267	104	0	0	0	104
	大草団地	29	0	0	0	5	34	14	0	0	0	14
小計		292	0	0	0	9	301	117	0	0	0	117
野田	芦	20	0	0	1	0	22	23	0	0	3	26
	南	24	0	0	0	1	25	32	0	0	0	32
	彦田	37	0	0	0	0	37	27	0	0	0	27
	雲明	20	0	0	0	2	22	28	0	0	0	28
	保井	34	0	0	0	2	36	40	0	0	1	41
	東馬草	34	0	0	0	6	40	12	0	0	0	12
	山ノ神	35	0	0	0	0	36	16	1	0	0	16
	西馬草	39	0	0	0	7	46	19	0	1	0	19
	今方	29	0	0	0	1	30	21	0	0	0	22
	北海道	16	0	0	0	0	17	9	0	0	0	9
	野田市場	37	0	0	0	5	42	28	0	0	0	28
	仁崎	51	0	0	1	2	55	33	0	3	3	39
	ほると台	2	0	0	0	0	2	7	0	0	0	7
小計		380	0	0	3	27	411	295	1	4	7	306
六連	長上	9	0	0	0	0	9	4	0	0	0	4
	久美原	55	0	0	0	0	56	25	0	0	1	27
	浜田	61	0	0	0	1	62	29	0	0	0	30
	百々	199	0	0	0	2	201	78	0	0	0	78
	新浜	34	0	0	0	1	35	27	0	0	0	27
小計		357	0	0	1	4	362	164	0	0	1	165
高松	高松	327	0	0	3	17	348	147	0	0	7	154
小計		327	0	0	3	17	348	147	0	0	7	154
赤羽根	赤羽根東	177	0	2	2	37	218	73	0	0	5	79
	赤羽根中	182	0	0	0	46	228	60	0	0	0	61
	赤羽根西	252	0	0	1	40	293	61	0	0	2	63
小計		610	0	2	3	123	738	194	0	0	7	202

注) 端数処理の関係で、合計が各項目の和と一致しない場合がある。

資料編

建物被害（理論上最大想定モデル（地震動：東側ケース、津波：ケース①）、冬夕方発災）

(3/3)

校区名	地区名	全壊・焼失棟数						半壊棟数				
		揺れ	液状化	津波	急傾斜地	火災	合計	揺れ	液状化	津波	急傾斜地	合計
若戸	池尻	100	0	26	0	20	146	40	0	10	1	51
	若見	193	0	0	1	46	240	83	0	0	2	85
	越戸	34	0	0	4	1	39	54	0	0	10	64
小計		327	0	26	5	66	424	177	0	10	12	199
泉	宇津江	54	0	0	1	4	59	36	0	0	2	38
	江比間	192	1	5	1	53	252	152	2	69	3	226
	八王子	72	0	0	0	3	76	52	0	0	1	53
	村松	46	0	0	0	2	49	43	0	0	0	43
	馬伏	23	0	0	0	3	26	22	0	0	0	22
	伊川津	98	0	5	1	19	123	84	0	46	2	133
	石神	40	0	0	0	3	44	43	0	1	1	45
	夕陽が浜	8	0	1	0	0	9	16	0	6	0	22
小計		533	1	11	4	89	638	447	3	122	10	581
清田	山田	9	0	0	1	1	10	18	0	0	1	19
	高木	63	0	0	0	4	67	61	0	6	0	67
	折立	79	0	2	0	16	97	53	0	13	0	66
	古田	93	0	1	1	90	185	102	1	11	2	117
小計		244	0	3	2	111	360	234	1	30	4	269
福江	長沢	5	0	0	0	0	5	10	0	0	0	10
	福江	303	3	14	0	191	511	218	4	65	0	288
	保美	128	0	0	0	15	144	136	0	9	0	145
	向山	36	1	16	0	18	71	21	3	32	0	56
小計		472	5	30	0	224	731	385	7	107	0	499
中山	中山	343	0	10	0	197	551	296	0	76	0	373
	小中山	195	0	39	0	129	363	249	1	254	0	504
小計		538	0	49	0	327	914	545	1	330	0	877
亀山	亀山	37	0	0	1	3	41	67	0	20	2	89
	西山	58	0	3	0	1	62	85	2	113	0	200
小計		94	0	3	1	4	102	153	2	133	2	289
伊良湖	伊良湖	17	0	11	1	3	31	39	0	51	3	93
	日出	24	0	100	1	1	125	10	0	12	2	24
小計		40	0	111	2	4	156	49	0	63	5	117
堀切	堀切	77	0	497	1	4	579	50	0	140	2	192
	小塩津	40	0	57	2	7	106	57	0	64	5	125
小計		117	0	554	3	11	685	107	0	204	7	318
和地	和地一色	13	0	1	0	1	15	25	0	1	0	26
	和地	11	0	17	3	2	32	46	0	10	6	62
	土田	7	0	4	1	1	13	23	0	1	3	26
小計		31	0	21	4	4	60	93	0	12	8	114
緑が浜	緑が浜	119	4	0	0	1	124	81	131	0	0	212
	姫島	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	白浜	1	0	0	0	0	2	4	0	0	0	4
小計		120	4	0	0	1	126	84	131	1	0	216
田原市合計		10,279	13	817	36	1,278	12,423	5,314	152	1,043	84	6,593

注) 端数処理の関係で、合計が各項目の和と一致しない場合がある。

人的被害の予測

※重傷者、軽傷者は早期避難率低の場合のみ示す

①理論上最大想定モデル（地震動：陸側ケース、津波：ケース①）

項目			冬・早朝	春秋・日中	冬・夕
建物倒壊 (うち屋内転倒物・ 屋内落下物)		死者数	530 (36)	210 (16)	389 (23)
		重傷者数	1,043 (142)	1,260 (108)	949 (96)
		軽傷者数	1,938 (488)	2,181 (387)	1,720 (396)
浸水・ 津波	早期避難率高 +呼びかけ	死者数	338	95	188
		重傷者数	1	0	0
		軽傷者数	1	0	0
	早期避難率低	死者数	988	512	759
		重傷者数	16	12	15
		軽傷者数	31	22	30
急傾斜地崩壊等		死者数	4	4	4
		重傷者数	2	2	2
		軽傷者数	2	2	2
火災		死者数	50	23	95
		重傷者数	9	11	27
		軽傷者数	24	28	70
ブロック塀の転倒、 屋外落下物		死者数	0	0	0
		重傷者数	0	2	3
		軽傷者数	0	3	7
死傷者数合計	早期避難 率高 +呼びかけ	死者数	921	332	676
		重傷者数	1,055	1,275	982
		軽傷者数	1,966	2,215	1,799
	早期避難 率低	死者数	1,571	749	1,247
		重傷者数	1,070	1,286	997
		軽傷者数	1,995	2,237	1,829
自力脱出困難者数・ 要救助者数		地震動	2,374	1,547	2,027
		津波	79	257	152

資料編

死者数（理論上最大想定モデル（地震動：陸側ケース、津波：ケース①）、冬早朝発災）

(1/3)

〔早期避難率低の場合〕

校区名	地区名	死者数							合計	
		建物倒壊等		津波			急傾斜地崩壊等	火災		ブロック塀・自動販売機の転倒、屋外落下物
		(うち屋内収容物移動・転倒、屋内落下物)		(うち自力脱出困難)	(うち津波からの逃げ遅れ)					
田原東部	相川	1	0	0	0	0	0	0	0	1
	谷藤	4	0	3	1	2	0	0	0	7
	やぐま台	3	0	0	0	0	0	0	0	3
	豊島	10	1	1	1	0	0	0	0	11
	御殿山	0	0	0	0	0	0	0	0	0
小計	18	1	4	2	2	0	0	0	23	
童浦	吉胡	4	0	2	1	1	0	0	0	6
	浦	10	1	1	1	0	0	0	0	12
	波瀬	1	0	0	0	0	0	0	0	1
	片西	0	0	1	0	1	0	0	0	1
	片浜	2	0	0	0	0	0	0	0	2
	白谷	2	0	0	0	0	0	0	0	2
	西浦	1	0	0	0	0	0	0	0	1
	姫見台	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	木綿台	1	0	0	0	0	0	0	0	1
	光崎	1	0	0	0	0	0	0	0	1
	吉胡台	0	0	0	0	0	0	0	0	1
小計	22	1	4	2	2	0	1	0	27	
田原南部	大久保	11	1	0	0	0	0	0	0	11
小計	11	1	0	0	0	0	0	0	11	
田原中部	一番東	4	0	1	1	0	0	0	0	5
	一番西	2	0	0	0	0	0	0	0	2
	三番組	2	0	0	0	0	0	0	0	2
	四番組南	3	0	3	2	1	0	0	0	6
	四番組東	1	0	0	0	0	0	0	0	1
	四番組西	3	0	0	0	0	0	0	0	3
	菅町一区	3	0	9	8	1	0	0	0	13
	菅町二区	4	0	3	3	0	0	1	0	8
	菅町三区	4	0	0	0	0	0	1	0	5
	本町	2	0	0	0	0	0	0	0	2
	新町	6	0	0	0	0	0	1	0	7
	蔵王	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	蔵王東ヶ丘	1	0	0	0	0	0	0	0	2
蔵王南ヶ丘	1	0	0	0	0	0	0	0	1	
小計	38	3	16	14	2	0	4	0	58	
衣笠	加治	15	1	0	0	0	0	0	0	15
	衣笠	7	0	0	0	0	0	0	0	7
	東滝頭	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	八軒家	7	0	0	0	0	0	0	0	7
	藤七原	2	0	0	0	0	0	0	0	2
	鎌田	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	赤石	1	0	0	0	0	0	0	0	1
小計	31	2	0	0	0	0	1	0	32	

注) 端数処理の関係で、合計が各項目の和と一致しない場合がある。

資料編

死者数（理論上最大想定モデル（地震動：陸側ケース、津波：ケース①）、冬早朝発災）

(2/3)

〔早期避難率低の場合〕

校区名	地区名	死者数							合計	
		建物倒壊等		津波			急傾斜地崩壊等	火災		ブロック塀・自動販売機の転倒、屋外落下物
		(うち屋内収容物移動・転倒、屋内落下物)		(うち自力脱出困難)	(うち津波からの逃げ遅れ)					
神戸	川岸	4	0	3	3	0	0	0	0	7
	漆田一区	4	0	0	0	0	0	0	0	4
	漆田二区	2	0	0	0	0	0	0	0	2
	神戸市場	1	0	0	0	0	0	0	0	1
	青津	3	0	0	0	0	0	0	0	3
	希望が丘	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	赤松	4	0	0	0	0	0	0	0	4
	志田	1	0	0	0	0	0	0	0	1
	新美	1	0	0	0	0	0	0	0	1
	南町	3	0	0	0	0	0	0	0	3
	谷ノ口	2	0	0	0	0	0	0	0	2
	東ヶ谷	3	0	0	0	0	0	0	0	3
	サンコート	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	漆田三区	1	0	1	1	0	0	0	0	2
	東赤石	0	0	0	0	0	0	0	0	0
小計		28	2	4	4	0	0	1	0	33
大草	大草	10	1	0	0	0	0	0	0	10
	大草団地	2	0	0	0	0	0	0	0	2
小計		11	1	0	0	0	0	1	0	12
野田	芦	2	0	0	0	0	0	0	0	2
	南	1	0	0	0	0	0	0	0	1
	彦田	2	0	0	0	0	0	0	0	2
	雲明	1	0	0	0	0	0	0	0	1
	保井	2	0	0	0	0	0	0	0	2
	東馬草	2	0	0	0	0	0	0	0	2
	山ノ神	2	0	0	0	0	0	0	0	2
	西馬草	2	0	0	0	0	0	0	0	2
	今方	2	0	0	0	0	0	0	0	2
	北海道	1	0	0	0	0	0	0	0	1
	野田市場	2	0	0	0	0	0	0	0	2
	仁崎	3	0	1	1	0	0	0	0	4
	ほると台	0	0	0	0	0	0	0	0	0
小計		20	1	1	1	0	0	1	0	23
六連	長上	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	久美原	2	0	0	0	0	0	0	0	2
	浜田	2	0	0	0	0	0	0	0	2
	百々	7	0	0	0	0	0	0	0	7
	新浜	1	0	0	0	0	0	0	0	1
小計		12	1	0	0	0	0	0	0	12
高松	高松	21	1	0	0	0	0	1	0	22
小計		21	1	0	0	0	0	1	0	22
赤羽根	赤羽根東	14	1	2	0	2	0	2	0	18
	赤羽根中	13	1	0	0	0	0	3	0	15
	赤羽根西	15	1	0	0	0	0	3	0	19
小計		42	3	2	0	2	0	8	0	52

注) 端数処理の関係で、合計が各項目の和と一致しない場合がある。

資料編

死者数（理論上最大想定モデル（地震動：陸側ケース、津波：ケース①）、冬早朝発災）

(3/3)

〔早期避難率低の場合〕

校区名	地区名	死者数								
		建物倒壊等		津波			急傾斜地崩壊等	火災	ブロック塀・自動販売機の転倒、屋外落下物	合計
			(うち屋内収容物移動・転倒、屋内落下物)	(うち自力脱出困難)	(うち津波からの逃げ遅れ)					
若戸	池尻	7	0	24	8	16	0	1	0	32
	若見	16	1	1	0	1	0	3	0	20
	越戸	2	0	0	0	0	0	0	0	3
小計	26	2	25	8	17	0	4	0	55	
泉	宇津江	4	0	0	0	0	0	0	0	5
	江比間	16	1	21	16	5	0	1	0	39
	八王子	5	0	0	0	0	0	0	0	5
	村松	4	0	0	0	0	0	0	0	4
	馬伏	2	0	0	0	0	0	0	0	2
	伊川津	9	1	13	12	1	0	1	0	23
	石神	3	0	0	0	0	0	0	0	4
	夕陽が浜	1	0	1	1	0	0	0	0	2
小計	46	3	35	29	6	0	3	0	84	
清田	山田	1	0	0	0	0	0	0	0	2
	高木	5	0	1	1	0	0	0	0	6
	折立	7	0	5	5	0	0	1	0	13
	古田	12	1	3	3	0	0	4	0	19
小計	25	2	9	9	0	0	5	0	39	
福江	長沢	1	0	0	0	0	0	0	0	1
	福江	31	2	27	23	4	0	7	0	64
	保美	14	1	2	2	0	0	1	0	16
	向山	3	0	6	6	0	0	0	0	9
小計	48	3	35	31	4	0	8	0	91	
中山	中山	40	3	21	20	1	0	9	0	70
	小中山	36	2	68	58	10	0	3	0	107
小計	76	5	89	78	11	0	12	0	177	
亀山	亀山	6	0	3	3	0	0	0	0	9
	西山	8	1	17	14	3	0	0	0	25
小計	14	1	20	17	3	0	0	0	35	
伊良湖	伊良湖	5	0	31	6	25	0	0	0	36
	日出	5	0	93	10	83	0	0	0	98
小計	10	1	124	16	108	0	0	0	134	
堀切	堀切	18	1	502	42	460	0	0	0	520
	小塩津	8	1	100	14	86	0	0	0	108
小計	26	2	602	56	546	0	0	0	628	
和地	和地一色	2	0	1	0	1	0	0	0	3
	和地	2	0	14	0	14	0	0	0	16
	土田	1	0	3	0	3	0	0	0	4
小計	5	0	18	0	18	0	0	0	24	
小計	緑が浜	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	姫島	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	白浜	0	0	0	0	0	0	0	0	0
田原市合計	530	36	988	267	721	4	50	0	1,571	

注) 端数処理の関係で、合計が各項目の和と一致しない場合がある。

資料－８ 通行障害既存ブロック塀等調査結果の整理

1. ブロック塀の分布状況

(1) 対象ブロック塀のデータ化

本市におけるブロック塀の分布状況について、自治会の協力のもと小学校区単位にて調査を実施し、対象箇所ごとに位置情報及び諸元データを入力しました。その結果、緊急輸送道路（第1次、第2次）に面するブロック塀の件数は、

167箇所（第1次緊急輸送道路沿いに58箇所、第2次緊急輸送道路沿いに109箇所）分布していることが分かりました。

前面道路	ブロック塀種別				合計
	コンクリート ブロック塀	万代塀	その他	不明	
第1次緊急輸送道路	40箇所	9箇所	9箇所	－	58箇所
第2次緊急輸送道路	75箇所	27箇所	5箇所	2箇所	109箇所

図 ブロック塀位置図

